

# 周南地域スポーツフェスタが開催されました！

7月30日（土）下松スポーツ公園を会場に、周南地域スポーツフェスタ2022が開催されました。昨年・一昨年とコロナ禍で中止となり、3年ぶりの開催となりました。内容としては、体育館でトップアスリートによる卓球教室、グラウンドでの体験コーナーでした。

卓球教室には、今期オーストリアリーグのSPG フェルバマイヤ・ヴェルスでプレーをする笠原弘光選手を講師にお招きし、午前（小中学生）・午後（高校生以上）の2部制で、約110人が参加していました。

笠原選手への質問コーナーや中学生と3点マッチでの試合形式を行い、世界で活躍するトップアスリートに対戦できる滅多にない機会であり、果敢に挑んでいる姿が見られました。参加者からの質問に対して、実際にプレーして打ち合いながら答えていただくなどの交流があり、参加者にとって貴重な時間になっていました。



体験コーナーでは、アーチェリー、ダーツ、モルックやスラックライン、バランスなどをスタンプリ制で行いました。事前申込ではなく随時受付としたため、予想よりも来場が少なかったように思えました。少なかった理由として、コロナ禍、開催時期、周知不足等いろいろな要因があると思います。また、この体験コーナーは親子や小学生以下の参加が予想されましたが、同じ時間帯に卓球の小中学生の部が行われていたことにも要因があったのではないのでしょうか。総合型地域スポーツクラブの広報という側面があるスポーツフェスタとしては考えていく必要があったように感じました。来場した

た人はとても楽しそうに体験しており、子どもが上手にバランスをとりながら渡ったり、アーチェリーやダーツをしたりする姿を微笑ましくみているご家族や、モルックやスラックラインを親子で楽しんでいる姿はとても印象的でした。

雨が降ったり太陽が照りつけたりする変わりやすい天気、気温も高くとても暑い日でしたが、感染症や熱中症の対策ができ、クラブ、行政、各種目の関係者が協力し安全に終えることができました。

また、華陵高校アーチェリー部のみなさんに指導以外にも受付や、準備から片付けまでご協力いただいたこともスムーズな運営につながっていたと感じました。

今回のイベントを機に、クラブ活動に新たな種目（教室）として取り入れてみたり、連携したイベントをしてみたりと、新たな動きが出てくると活動内容の充実やクラブの継続にもつながっていくのではないのでしょうか。運営に携わった皆さま本当にお疲れ様でした。

わくわく（輪く和く）通信

山口県生涯スポーツ推進センターだより

Vol.46

2022年

8月

スポーツクラブ



# 令和4年度 第1回地域スポーツ指導者養成研修会 ACP普及講習会の報告

6月25日（土）、下関武道館において、21人の参加者がACPの理論や実技を学びました。

## **理論講師** JSPOスポーツ科学研究室 室長代理 青野博氏

初めに、第3期スポーツ基本計画を紹介され、生涯にわたって運動やスポーツを継続し、心身共に健康で幸福な生活（いわゆる、Well-being）を営むことができる資質や能力（いわゆる、フィジカルリテラシー）の育成を図るという、今後国が取り組む施策や目標についてお話されました。

次に、神経系器官が発達する幼少期は、さまざまな動きの修得ができ、併せて、脳の発達による子どもの頃の発達が著しいことを私たち指導者が理解しておくことの重要性を強調されました。遊び方を工夫することで、創造力が生まれます。遊びが楽しいからこそさらに「工夫」していくことも示されました。

遊びに着目したACPでは、多様な動きを引き出すことに次のような意義を話されました。

○経験することでのみ、その動きが身につく ○発達段階に応じた活動として ○脳への多様な刺激として ○外傷、障害予防として ○生涯スポーツの基礎として



△進化ジャンケン

## **実技講師** 東京学芸大学 教授 佐藤善人氏

実技では、アイスブレイキングとして、「お料理作り」「体ジャンケン」「王様だるまさんがころんだ」「進化ジャンケン」などで、心をほぐすことから始まりました。

進化ジャンケンでは、ウサギになったり、ゴリラになったりしながら、ジャンケンに夢中になるあまり、日ごろ動かさない筋肉を思わず動かしている様子がたくさん見られました。

アレンジについては、佐藤先生が一番強調されておられ、「単純な動きから複雑な動きへ」と変化していくことで、幼児からでも楽しくチャレンジできることを教わりました。

## ★参加者の感想から★

○自分の体力の衰えを感じ、子どもと一緒に楽しめるように体力づくりをしたい。

○子どもにも良いのですが、大人も童心に帰ることができるものばかりでした。

○自分自身、運動は苦手ですが、とても楽しい時間でした。現場で活かせる。

## **講習会を終えて**



今年度は対面式での開催となり、細かな動きや指導者としての声かけなど、たくさん学びとることができました。

参加者アンケートでは、例年のように「日ごろの活動に活かせる」「幼児の活動に活かせる」などの感想が多く寄せられました。

また、この講習会に先立ち、子どもたちを集めて、「しものせきキッズACP」を同じ場所で行いました。講師のお二人と女性とスポーツの会の皆さんによるACP教室を開催しました。「外で遊ぶ機会が減ってきている中、たくさんの友達と体を動かして楽しく遊ぶことができ、とても充実した時間を過ごせました。また参加したいです。」という感想を始め、「親子で楽しかった」「家でもできそう」という意見をいただきました。

31人の子どもたちと保護者の皆さんが、佐藤・青野先生や女性とスポーツの会の皆さんが次々に展開するACPに夢中になって参加して、家庭でもやってみたいとの感想をいただきました。





## 人がつながる 人でつながる 人がつくる

地域に根ざしたクラブの経営や活動を支えるのは人…このコーナーでは、コンシェルジュがインタビューをして、総合型地域スポーツクラブにかかわる人を紹介していきます。

### NPO法人セイザン下関スポーツクラブ 理事長 宮崎 明宏 氏

NPO 法人セイザン下関スポーツクラブは、4年間の準備期間を経て、2021年4月に総合型地域スポーツクラブへと移行しました。今回は、理事長である宮崎明宏氏にお話を伺いました。

#### 宮崎理事長のこれまでの経歴を教えてください。

出身は愛媛県で、大学で広島県に行きました。昭和58年に下関中央工業高校の造船科の教員として赴任し、山口県にやって来ました。県内の他の高校に造船科がないこともあり、下関中央工業高校には30年間勤務しました。この下関中央工業高校では、サッカー部の監督やコーチとして指導をし、生徒との日々を過ごしました。その後、宇部総合支援学校に1年間勤務し、教員を早期退職し、このクラブに専念することにしました。

このクラブの母体は、1989年にスタートした生山FCで、発足2年目から高校のサッカー部も見ながら、クラブにも携わっていました。クラブの前代表の転勤を機に、15年前にクラブ代表となり現在に至ります。

#### 長年、指導者をされておられますが、どんなことを大切にされていますか？

あいさつや時間を守るなどの社会的ルールやマナー、意思表示（コミュニケーション）、仲間づくり、自分のことは自分です、感謝するなど、豊かな人間性を育成することなど、一言で言えば、人間形成が一番大切だと思っています。

#### クラブは法人格を取得されていますがどんな思いで取得されたのでしょうか？

開かれた組織運営、会計の透明性を確保しつつ、活動内容を広く情報公開することによって、組織運営の社会的信用性が向上することが第一の理由です。加えて、さまざまな補助や寄付を受けたり、スポーツ施設の指定管理を受託したりすることで、このクラブの土台をしっかりとらせていきたいとの思いもありました。

総合型クラブに移行して約1年5か月が経ち、サッカーとヨガに加え、今年度からヒップホップダンスが新たに加わったようです。今後は、海岸清掃等のボランティア活動もしていきたいとお話されていました。



## 中国ブロッククラブネットワークアクション2022



日時:11月12日(土) 終日(10:00~17:00 予定)

形式:ハイブリッド形式(集合・オンラインどちらでも参加可能)

集合場所:セントコア山口(山口市)

実施協力金(参加料):2,200円/1人…国の登録・認証制度登録クラブ関係者

3,300円/1人…国の登録・認証制度未登録クラブ関係者、行政担当者

▶山口県連絡協議会から1人2,200円を補助することが総会にて決定したため、登録クラブ0円・未登録クラブ1人1,100円の負担となります(ただし、参加者数によって、各クラブ何名まで負担可能か検討)

### 内容(予定) 午前の部 共通プログラム

スポーツ庁からの情報提供 テーマ「運動部活動改革についての情報共有」

山陽小野田市赤崎・本山地区の事例発表

### 午後の部 開催ブロック独自プログラム

講演(コミュニティスポーツクラブあとう)、他県の事例発表、県行政による発表、日本スポーツ協会からの情報提供

現在、発表の内容や講師等を調整中のため、決まり次第お知らせいたします。  
山口県開催ですので、多くのクラブからのご参加よろしく願いいたします。

# 子どものスポーツ活動機会確保・充実に向けた部活動改革について

## 中学校が担ってきた部活動が大きく変わります！

### 背景・目的

- これまで、中学校等の生徒がスポーツ・文化活動に親しむ機会は、学校が部活動を設置運営する形で確保されてきました。しかし、近年少子化の進行や学校の働き方改革が進む中で、部活動を学校単位で継続することは困難な状況が生じてきており、**今後、子どもたちがスポーツや文化活動に親しむ機会が減少することが全国的に懸念されています。**
- 国（スポーツ庁・文化庁）は、子どもたちが地域においてスポーツ・文化活動の機会を将来にわたって確保・充実できるよう、地域における新たな環境づくりを推進しています。
- 山口県でも、国の方向性を踏まえ、本県の子どもたちの将来にわたるスポーツ・文化活動の機会確保に向けた取組を推進しています。

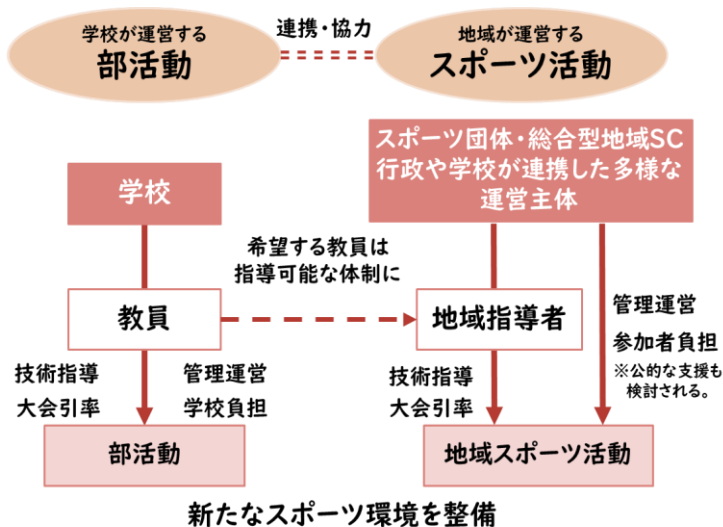
### 地域移行後のイメージ

部活動の運営体制が変わり、地域に移行されることが検討されています。

令和5年から令和7年度末までに休日の運動部活動から段階的に移行できるよう、協議を積み重ねて、子どもたちがよりよい環境でスポーツ活動に取り組むことができる持続可能な体制づくりを目指します。

移行後は、学校の教育活動から切り離れた地域のスポーツ活動になります。

※改革は、「選択肢」を示し、「複数の道筋」や「多様な方法」があることを意識して進めます。



### スポーツ庁に提出された「運動部活動の地域移行に関する検討会議」の提言の主な内容

#### 改革の方向性

まずは、休日の部活動から移行していくことを基本とし、平日の移行は、地域の実情に応じるところから取り組み、地域移行の進捗状況を検証し、更なる改革を推進

#### 実施主体

多様な実施主体を想定（スポーツ少年団・民間クラブチーム・総合型地域スポーツクラブ・学校関係団体等）

#### 参加者

すべての希望生徒を想定

#### 活動内容

競技力向上・レクリエーション志向や体力・障害の有無にかかわらず参加できる内容など様々な志向に応じた活動

#### 活動場所

地域スポーツ団体の施設等だけではなく、中学校等の学校の施設を積極的に活用

#### 休日の運動部活動の地域移行の達成目標時期

令和7年度末を目途とする。令和5年度～7年度の3年間で**改革集中期間**と位置付け

※ 今後、国からガイドラインや通知が示され、スポーツ推進課・文化振興課や県教育委員会から随時、情報提供がされる予定です。

【生涯スポーツ推進センター問い合わせ先】

中央生涯スポーツ推進センター（山口県体育協会）

TEL 083-933-4697 FAX 083-933-4699

スポーツくじ toto BIG

クラブアドバイザーは、スポーツ振興くじ (toto) 助成を受けて活動しています。